

ポイント

◆◆特集◆◆

★自転車活用推進法の施行について★

(国土交通省 道路局 参事官)

近年、我が国における自転車の保有台数は、その利用ニーズの多様化に伴い、増加傾向にある。このような状況の中、昨年12月9日に自転車活用推進法(平成28年法律第113号。以下「法」という。)が成立し、本年5月1日に施行されたところであるが、現在、法に基づき、自転車活用推進計画の策定に向け準備を進めているところである。

本稿では、法の制定の経緯や概要、自転車活用推進計画の策定に向けた動向について紹介する。

◆◆道路占用Q&A◆◆

★占用入札制度について★

(国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室)

占用入札制度について解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★ライジングボラードによる歩行者主体の道路空間創出の取り組みについて★

(新潟市 中央区役所 建設課)

新潟市では、超高齢・人口減少社会に対応し、だれもが「健」やかに「幸」せになれる「健幸都市づくり(スマートウェルネスシティ)」に取り組んでいます。住んでいるだけで「自然と歩いてしまう・歩き続けてしまう」まちづくりの一環として、ライジングボラードを設置・運用しています。

本稿では、平成29年4月に全国初となる通学路でのライジングボラードによる交通安全の取り組みをはじめ、既に本格運用している商店街(ふるまちモール6・古町通8番町)でのライジングボラードによる歩行空間創出の取り組みについて紹介します。

.....

★「道路ふれあい月間」における道路愛護団体等の国土交通大臣表彰について★

(国土交通省 道路局 総務課)

国土交通省では「道路ふれあい月間」(8月1日～8月31日)にあたり、多年にわたり道路愛護の活動を行うなど、功績のあった民間の団体または個人に対して、感謝状を贈り、表彰することとしています。

本稿では、平成29年度に表彰された88団体88件、個人9名9件について紹介します。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★鳥取県中部地域の玄関口として★

“まちづくり”の新たな拠点 重点「道の駅」琴(こと)の浦(うら) のご紹介  
(国土交通省 中国地方整備局 倉吉河川国道事務所)

今年、平成5年に「道の駅」の登録制度が始まって25年経過し、四半世紀という節目の年です。鳥取県では、平成5年4月に道の駅「大栄(だいえい)」が第1回目で登録されて以降、現在では、東部地域に5箇所、中部地域に8箇所、西部地域に3箇所と、合計16箇所の「道の駅」が登録されています。本稿では、平成29年4月末に鳥取県内16駅目の「道の駅」として鳥取県中部地域に新たに誕生した、ゲートウェイ型道の駅「琴の浦」の取組みについてご紹介します。

.....

★三重県における道路の老朽化対策について★

(三重県 県土整備部 道路管理課)

三重県では、道路ストックの老朽化を原因とした道路利用者や第三者被害等を未然に防止するため、長寿命化対策や県内道路管理者が連携したメンテナンス体制の強化に取り組んでおり、本稿ではこれらの取組みについて紹介します。

.....

★鈴鹿市における橋梁定期点検について★

—取組みと今後の課題—

(三重県 鈴鹿市 道路保全課)

鈴鹿市では、利用者が安全で安心して利用できる道路環境を整えることを目的に、公共施設マネジメントの観点から、将来的なサービス需要の変化を見据えながら計画的な維持、更新に取り組んでおり、本稿ではこれらの取組みのうち、橋梁の保全に関して紹介します。

## ◆◆編集後記◆◆

夏になると、梅干しを食べることで、汗をかいて体内から出てしまった塩分を補っていますが、今夏は過ごしやすい日が多く、例年よりも塩分摂取を気にすることなく夏を過ごしています。

体内での塩の働きを見てみると、身体の中の水分の量や細胞と体液の間で浸透圧の調整をしています。この作用のバランスが崩れると、栄養素を体内に吸収できなくなり、血圧の低下、脱水症状、立ちくらみ、むくみなどにつながるとともに、新陳代謝も衰えてしまいます。また、塩の成分であるナトリウムは、筋肉の収縮を助け、また、血液や胃液などとなって働いています。例えば、夏の暑い日に激しい運動をした場合、足がつることがありますが、これは、汗をかくことで身体のナトリウムが体外に排出されてしまい、極端に不足することで起こります。一方で、塩分過多は、高血圧や腎臓疾患につながることから、減塩が健康に良いといわれることもありますが、減らし過ぎても身体の不調を招く場合があります。どちらに傾いても健康を害することがあるので、バランスがとても重要となります。

このように、人体の生命維持に不可欠な塩ですが、特定の場所でしか採ることができず、わが国で採れる唯一の塩資源は海水となるため、特に山間部において、塩の調達はとても重要な課題でした。冷蔵技術が確立するまでは、塩蔵が食品保存の最も有効な手段であったからです。そこで、塩の流通ルートとなる塩の道と呼ばれる街道ができ、その沿道には宿場町が開発されてきた歴史があります。世界に目を向けてみると、海水のほか、地殻変動によって陸上に残された海水が長い年月をかけて固まった岩塩、海水が岩塩に変化する前にできる塩湖からも採集することができますが、その昔、塩を要因とした政局争いや物資戦術などが存在するほか、給与や税金などとしても扱われることもあり、わが国と同様に、貴重な食品であったことには変わりがないようです。ちなみに、和製英語であるサラリーマンの salary (給与) は、塩で支払われるを意味するラテン語の salarium (サラリウム) に由来しているそうです。

わが国では、1997年に92年間続いた塩の専売制度が廃止されたことで、さまざまな産地の塩を目にする機会が増えました。選ぶ楽しさは増えたものの、どれを買ってよいか迷うなど、贅沢な悩みが持てる世の中となりました。そして、そのひと粒は小さくとも、人体の生命維持に不可欠であるとともに、時には争いの種となったり、給与や税金とされた過去を持つ不思議な食品でもあります。この不思議な食品である塩をバランスよく取り入れて、もうしばらく続きそうな残暑を乗り切りたいと思います。(U)